

水稻のスクミリングガイ対策と初期除草剤について

令和4年6月(中央地区)
東讃農業改良普及センター
東讃農業改良普及協議会

スクミリングガイ(ジャンボタニシ)食害対策:田植後3週間程度、「浅水管理」と「薬剤散布」による防除をしましょう。

成貝



卵塊



近年、暖冬によりジャンボタニシの越冬数が増加し、水稻苗の食害が拡大しています。被害を軽減する水田管理として、田面を均平にし、田植後3週間程度まで(稲が5葉期になるまで)浅水管理をし、被害が出る前に早めに薬剤散布することでジャンボタニシの活動を抑えましょう。

○浅水管理

- ・田植後2~3週間は、水深4cm以下(理想は1cm)を維持します。
- ・貝殻が水の上に出るくらいになると、活動が鈍くなったり、土の中に潜ったりします。

○薬剤防除

- ・スクミノンを1~4kg/10a(収穫60日前まで/2回以内)
又は、スクミンベイト3を2~4kg/10a(発生時、使用時期・回数制限なし)散布します。
※散布後7日間は落水やかけ流しをしないようにしましょう!
- ・水深が深い部分には多めに(3~4kg/10a)散布します。

○卵塊の掻き落とし・捕殺

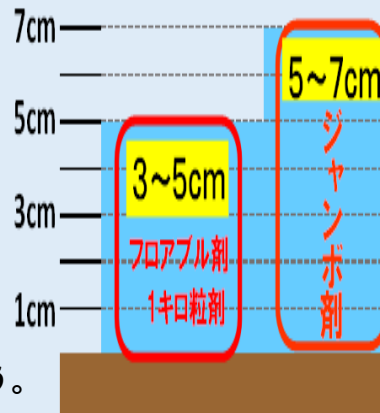
- ・ピンク色の卵塊を産卵後早いうちに水中に落とします。
- ・水深が深いところに野菜くずを入れて誘因し、集まった貝を捕殺し埋却などの処分をします。
※卵塊や貝は素手で触らないようにしましょう!

食害を受けたほ場



初期除草剤をしっかり効かせましょう!

- 除草剤は剤型によって、処理時の水深が異なります。散布後3~4日間はフロアブル剤、粒剤は3~5cm、ジャンボ剤は5~7cmを保ちます。散布後7日間は落水・かけ流しをしないようにします。
- 除草剤処理後は田直しなどで水田に入らないようにしましょう。
- 砂質土壌では、田植機の爪あとの戻りが悪いため、数日置いて土の穴への戻りを確認してから散布し、薬害を防ぎましょう。



農作業安全について

- トラクターに乗る際は必ずシートベルト・ヘルメットを着用しましょう。
- 草刈機を使用する際はフェースシールド等の装着、長袖長ズボンを着用し、肌の露出を少なくしましょう。
- コンバイン刈取り部の麦わら除去、田植機の植付爪詰まり除去の際は必ずエンジンを停止してから行いましょう。

